

小規模水道「持続」への提案

—非常時含めた課題解決策—

中山間地域や離島をはじめとする小規模集落においても、安全な飲料水の確保は必要不可欠であるが、こうした集落に水を届ける小規模水道では維持管理や施設の更新、クリプトスポリジウムへの対応など課題が山積しており、対応に苦慮する水道事業者も少なくない。こうした中、清水合金製作所が開発したアクアレスキューは高性能な膜ろ過浄水処理を可搬可能なサイズにまとめたことで、活躍の幅を大きく広げ、小規模水道の持続に貢献する製品として採用が増えている。今回は同製品を採用した2事業者の声を紹介するとともに、同社幹部にアクアレスキューの強みをお聞きした。

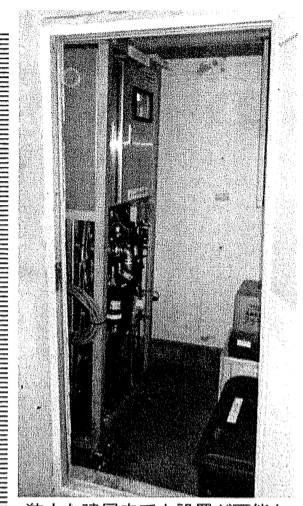
事例①

長野県辰野町

「ホタル舞う辰野町」長野県辰野町は、約1000世帯の小規模集落に水を届ける小規模水道事業を営んでいる。平成28年度末時点の給水量は約1000立方メートルで、人口は約1000人。平成29年度末時点の給水量は約1000立方メートルで、人口は約1000人。平成28年度末時点の給水量は約1000立方メートルで、人口は約1000人。平成29年度末時点の給水量は約1000立方メートルで、人口は約1000人。



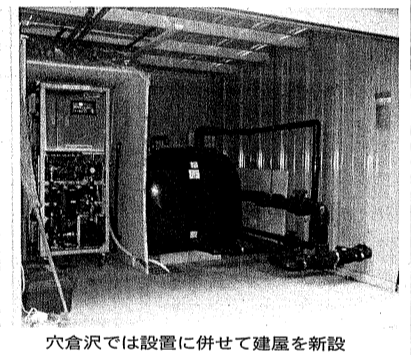
山田 保長



狭小な建屋内でも設置可能なアクアレスキュー(飯沼沢)

膜ろ過で安心な水を確保

「クリプトスポリジウム」の対策として、膜ろ過方式を採用している。膜ろ過方式は、クリプトスポリジウムを除去する効果が高く、安心して水を供給できる。また、アクアレスキューは、コンパクトで設置場所を選ばないため、狭小な建物でも設置可能。



穴倉沢では設置に併せて建屋を新設

事例②

栃木県佐野市

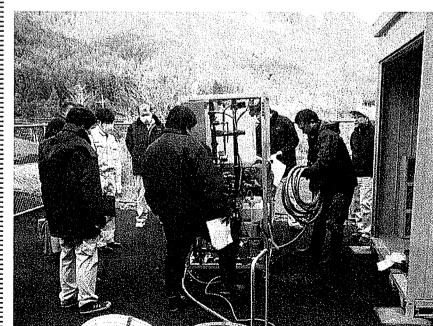
「都市と自然が融合する佐野市」栃木県佐野市は、約1000世帯の小規模集落に水を届ける小規模水道事業を営んでいる。平成28年度末時点の給水量は約1000立方メートルで、人口は約1000人。平成29年度末時点の給水量は約1000立方メートルで、人口は約1000人。

危機管理体制強化で採用

「非常時体制の強化」佐野市では、非常時の対応を強化するために、アクアレスキューを採用している。これは、災害時の水供給を確保するための重要な設備である。

定期訓練通じ操作定着へ

「非常時体制の強化」佐野市では、非常時の対応を強化するために、アクアレスキューを採用している。これは、災害時の水供給を確保するための重要な設備である。また、定期的な訓練を通じて、操作の定着を図っている。



導入後、操作手順の説明を受ける局職員ら

聞く

アクアレスキューの強みとは

「清水合金製作所の一般バルブから制御するバルブに至る製品の開発・製造・販売を担当する」として成長を重ねてきた。一方、近年では新規事業として、小型膜ろ過浄水装置「アクアレスキュー」の開発・製造・販売を開始している。

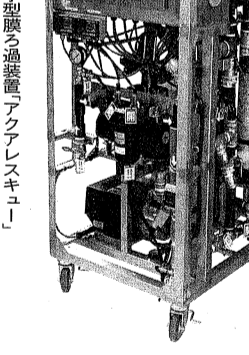
災害時リスク分散に貢献

「災害時リスク分散に貢献」アクアレスキューは、災害時の水供給を確保するための重要な設備である。また、コンパクトで設置場所を選ばないため、狭小な建物でも設置可能。



清水合金製作所 常務取締役技術本部長 橋岡 由男

「アクアレスキュー」は、高性能な膜ろ過浄水処理を可搬可能なサイズにまとめたことで、活躍の幅を大きく広げ、小規模水道の持続に貢献する製品として採用が増えている。



可搬式小型膜ろ過装置「アクアレスキュー」

「支援事業採択で普及拡大を促進」清水合金製作所は、支援事業採択を通じて、アクアレスキューの普及拡大を促進している。これは、災害時の水供給を確保するための重要な設備である。